

## 国語科通信 その12

令和2年5月12日

●「ワタシって 計算が苦手な人なんです。」

①(a)「私は計算が苦手なんです。」というのと、上記のように、  
(b)「ワタシって計算が苦手な人なんです。」というのは、ほぼ同じことを言っていますが、伝わり方は少し違いますか。

②こういう表現は主に女性、しかも若い女性に多いような気がします。いいご婦人に、「ワタクシって、こういう挨拶が苦手な人なんです…」などと言われると聞いている方が恥ずかしくなってくる。

③「～な人」の「～」には、自分の欠点や不得意が主に入りますが、(a)には、ある種の潔さがあります。正直に、自分の欠点を言う。一方(b)は、自分のことを「～な人」と言って、どこか他人事のように、少し距離を置いて表現しようとしていないでしょうか。意地悪な言い方をすると、「～な人」と言えばちょっと許して貰えるかもしれないという甘えのようなニュアンスが言外にある。

④現代の、主に若い女性に特有の表現と思いきや、あの『和泉式部日記』にも、高2で学習した『更級日記』にもあります。

⑤『和泉式部日記』予習範囲の最後の部分に注目です。敦道親

王への返事をなかなか出さず宮をじらそうとする(これも一種のお約束、駆け引きです)和泉式部ですが、続けて返事を迫られる中でこう言うのです。「もとも心深からぬ人にて(女=私はもともとから思慮の深くない人なので)……御返り(お返事を書きます)」という部分です。

⑥「思慮深い」人であるならば、簡単にお返事などしたりはしないだろうが、私(っていう人)は、もともと「思慮深くない」人なので(今更言っても仕方がない)、(軽々しくも)お返事するのだ…と、言い訳めいた表現をしつつ(ためらいつつも)一步を踏み出します。

⑦既習の『更級日記』冒頭もこうでしたね。「東路の道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを」…ここでも作者(菅原孝標女)は、自身を田舎育ちの人で野暮な人と、少し距離を置いて表現します。

⑧このように、自身を「～な人」と表現するのは、1000年昔の「女流日記文学」にすでにみられる書き方だったようです。そして、用法は微妙に異なることはあっても、冒頭の例のように、現代人にも受け継がれているものと思われます。

⑨「心」が先にあり「表現スタイル」がそれに合わせて生まれたのか。それとも、「表現スタイル」が先にあって、その「スタイル」が次第に「心」のありようを決めていくのか。どちらでしょう。

★?内容・ころ→方法・形式 or 方法・形式→内容・ころ?★

⑩少なくとも、「ワタシって～な人」という言い方が抜けないうちは、何かと「未熟」であることを売りにして世間に甘えたがる大人のままでいる…ということはあるようですが、どう思いますか。

⑪新しい現代文の教材「言語と記号」で、この問いに答えを出していきましょう。